

「時のウィーク」 ～明石市の地域活性イベント～

＜取組み説明＞

時のまち明石を切り口に6月10日（時の記念日）から1週間を「時のウィーク」と名付け、明石のおまつりとして、明石・時感動推進会議がイベントを開催しています。

よりよいイベントにする為の方向性を確認し、より多くの皆様に参加して頂く為のネットワーク構築を図り、明石の「まちづくり」を進めていく手段としています。

時のウィークとしては、子ども（幼児）から高齢の方まで、年代を問わず楽しんでいただけることを考えています。

時のウィークとは？

時の記念日は1920年（大正9年）、政府が国民生活改善のための時間尊重の趣旨から、天智天皇が671年水時計を用いて、公式に時報をはじめた6月10日を記念日と制定。

また、1886（明治19年7月13日勅令第五十一号）年に、世界時に9時間加えた時刻となる東経135度子午線上の時刻を自国の標準時として決めました。

1888（明治21年1月1日）年より東経135度子午線を日本標準時子午線と定めています。この東経135度線が明石市を通っていることから、明石は「時のまち」として知られるようになりました。



＜「時のまち明石」マスコット
キャラクター 時のわらし＞

神戸学院大学学生の参画

- 企画・運営ボランティア
- 学生放送局による場内放送
- 清掃ボランティア
- 出店
- 経営学部学生による、時のウィークおよび時の記念日の認知度アンケート調査
- ボランティア団体 VAF（神戸学院大学ボランティア活動基金）によるカンボジア教育支援を目的とした街頭募金活動
など



＜水位変化で時刻を示す「漏刻（ろうこく）」体験。
学生が使用方法を子どもたちに分かりやすく説明＞

「時のウィーク」 ～明石市の地域活性イベント～

＜時のウィーク 2012＞

2012年、時のウィークは20周年を迎えました。2012年6月1日～16日の期間に「時のウィーク2012」が開催されました。

今年のテーマは「明石・時の絆 ありがとう♥20周年」、多数の方々にご来場いただきました。

＜時のウィーク 2012 のチラシ＞

数々のイベント（一例）



＜軌道星隊シゴセンジャーと遊ぼう＞



＜武者行列＞

《その他》

- ・時の絆コンサート
- ・フリーマーケット
- ・いけばな展
- ・本格手作りヨロイ
- ・B-1 ご当地グルメブース
- ・ダンスパフォーマンス など

地域の活性化に学生の力を活かす実践活動 ～高齢化率の高い地域での住民交流を高める大学力活用～

<取組み説明>

明石市朝霧地区は神戸学院大学のすぐ隣にあり、本学学生も多く生活しています。多くの接点がありながらも、これまであまり意識することなくきていましたが、2012年春、朝霧地区在宅サービス推進ゾーン協議会（以下、ゾーン会議）から、大学生とともに地域の活性化を図るプログラムを実施したいとお申し出があり、本学ゼミ生10人と地域がともに準備に取り組みました。ゾーン会議のメンバーの方が学生の主体的な活動を支えてくださり、今回は「夏祭り」として実施しました。

学びながらの企画準備

4月に最初の打ち合わせを持って以来、8月11日「第1回あさぎり夏祭り&健康講座」の開催に向けて、以下の企画準備に取り組んだ。

1. 学生・教員のゾーン会議への参加
2. ゼミでの企画会議
3. 地域情報を得るため、在介センター職員・地域包括職員の方にゼミに来てもらってのヒアリング
4. 市役所での聞き取り
5. ゾーン協議会のメンバーとの企画のすり合わせ
6. 告知チラシの作成、配布の協力依頼

チラシは授業や試験の合間に手分けして配布した。どれだけの方が来てくださるか、と心配しながら準備を進めた。



老若男女、近所の人・大学生と出会おう！
健康について考えよう！

地域と大学の初のコラボ！！

夏祭り in Asagiri

- ・健康講座
- ・カフェ
- ・スイカわり
- ・かき氷
- ・アメつかみ
- ・わたがし

無料・かなり次第終了

【日時】 2012年8月11日（土）PM1時～3時
【場所】 あさぎりコミセン
（あかねが丘学園横・・・裏に地図）

【主催】 朝霧地区在宅サービスゾーン協議会（裏に解説）
神戸学院大学 社会リハビリテーション学科学生
【問い合わせ】 神戸学院大学 西垣ゼミ室
TEL: 078-974-1691

<第1回あさぎり夏祭り&健康講座当日>

<夏祭りの告知チラシ>



<綿菓子、かき氷づくりもいよいよ本番です>

<開始30分くらい前から子どもたちがやってきました>

地域の活性化に学生の力を活かす実践活動 ～高齢化率の高い地域での住民交流を高める大学力活用～

＜第1回あさぎり夏祭り&健康講座当日＞

当日は午前中から会場準備にあたり、医師会、薬剤師会による健康講座、在宅介護支援センターによる生活相談、車いす体験、住民団体によるカフェ、編み物講座、学生による夏祭りが行われた。暑い時期でもあり参加者がどれほどあるか心配されたが、200人を超える老若男女の参加を得て会場は予想以上の熱気に包まれた。地域に学生の顔を覚えてくださる方も増えた。



＜「こんなに子どもがこの地区にはいたんだ！」との声。お医者さん、薬剤師さん、施設の方も相談コーナーで大忙し＞



＜「これ教えてもらった。」と編み物を見せてくれました＞



＜スイカ割りも盛り上がりました＞

地域の活性化に学生の力を活かす実践活動 ～高齢化率の高い地域での住民交流を高める大学力活用～

<第1回あさぎり夏祭り&健康講座の開催後・・・>

今後の取り組みとしては、地区ゾーン会議とともに年に2回程度の行事開催を担っていきたいと考えている。多様な方々の交流を図り、互いを知り、助け合える環境作りを導く企画にしていけるよう、本学の図書館の協力を得ている。

また、今後は他のゼミやクラブサークル等の活動との連携も模索していく予定である。

参加者の感想（抜粋）

「大学生がわれわれ（住民）のためにがんばってくれてうれしい」

「とても楽しかったので、来年も続けてほしい」

「若い人がいて活気があった。外出を心がけているので呼んでもらってありがたい」

神戸新聞 2012年(平成24年)8月13日 月曜日

朝霧中学校区で夏祭り
高年齢者に地域との交流
を持ってもらおうと、朝霧中学校区の在宅介護支援組織が11日、松が丘5の朝霧コミセンで夏祭りを開いた。保健福祉を学ぶ神戸学院大の学生も運営を手伝い、にぎやかに盛り上げた。

朝霧地区在宅サービスゾーン協議会（米澤嘉啓会長）が、同大学社会リハビリテーション学科と初開催した。同校区は高齢化率が高く、孤立しやすいお年寄りをどう見守るかが課題。協議会は健康講座などを開いてきたが、より幅広い層に参加

朝霧中学校区で夏祭り 高年齢者ら200人が交流 神院大生もお手伝い

この日は事前に案内を受けた高年齢者や子どもら約200人が来場。医師らが健康相談コーナーな

りとながるきっかけになれば」と笑顔。近くの

りかたいと話していた。
(小林良多)



大学生が手伝うなど多世代が交流した夏祭りの会場＝松が丘5

<2012年8月13日付 神戸新聞>